

市民広聴会「市長と話そう」の記録 ⑥南市民センター

■開催の概要

日時	令和5年11月9日(木) 18:30~20:00
場所	南市民センター
主なテーマ	重点戦略2「いつまでも健康でいられるまちづくり」
参加者数	20人

■意見交換の概要(要約)

ご意見(ア)

○鶴ヶ島市全体をより良くすることよりも、いかに現状を維持していくか考えたほうが良いと思う。地域支え合い協議会に関わっているが、担い手がいなくなっており、後継者を早い時期から探しておく必要がある。

→ご意見として伺う。

ご意見(イ)

○鶴ヶ島市は高齢化が進んでいるため、高齢者が健康のために活動できる環境づくりを進めてほしい。高齢化によって自治会の活動が厳しくなっている状況にあり、自治会活動にメリットを感じられずに退会する人も見られる。このような問題に対して、市はどのような支援、対策をしていくつもりであるか。

→高齢化が進む中、高齢者の活動を多様なかたちで支援していく必要があると考えている。市民センターでの活動が、一人ひとりの健康の源になっていると思う。自治会については、まずは地域の住民が協力して盛り上げていく必要がある。災害が発生した際には、まずは一人ひとりが、そして自治会の中でお互いに助け合う、地域を自分達で守ることが重要になってくる。担い手不足の問題はあるが、活動に努めてもらいたい。

ご意見(ウ)

○海洋センターで卓球の団体に所属している。海洋センターが4年後に閉館になると聞いた。活動拠点が変わってしまうと参加が厳しくなるとの意見もある。海洋センターの閉館を先延ばしにするか、小さい規模でもよいので市内のスポーツ施設を増やしてほしい。

→若いうちからスポーツに親しみ、健康な状態で高齢期を迎えるという目的で、スポーツ施設の整備を進めている。今後も市民が使いやすいスポーツ施設の整備に努めていく。

ご意見(エ)

○小学校の統廃合についての考え方を教えてもらいたい。鶴ヶ島市には農地などの広大な土地があるため、それらを転用し、企業誘致を行い、市全体の財源を豊かにすることができるのではないか。

→小学校の統廃合については2年前に検討を行った結果、基本的な方向性としては、20年間は現状を維持することを基本としている。学校を継続させるためには、子どもの数を維持する必要もあり、少子化に歯止めがかかるよう努めていく。中学校については、生徒数が少ない西中学校と鶴ヶ島中学校との再

編を進めている。農地の転用については、厳しい条件のもとで許可を得る必要があり、一方で農業政策としては、新規就農者を増やすなど農地を守る方向性もある。企業の誘致については、鶴ヶ島インターチェンジの立体化をきっかけに、周辺に4年間で複数企業の誘致が決まった。本市内での従業員の確保が課題となっているが、鶴ヶ丘の株式会社関水金属の新工場では多くの雇用が生まれることを期待している。

ご意見（オ）

○海洋センターはどうなるのか。

→海洋センターの利用団体と相談しながら、代替施設等について検討していく。

ご意見（カ）

○日頃、健康のためにウォーキングしているが、今回整備を予定している関水金属の工場緑地やその他の市内の公園施設にウォーキングしやすい道を整備してもらいたい。合わせてウォーキングマップを作り、周知してもらいたい。

→健康長寿課で作成したウォーキングマップがあるので、コースについてはそちらを利用させていただきたい。関水金属の工場緑地については、市の公園と一体的に整備を行い、ウォーキングができるようになる。その他、鶴ヶ島グリーンパークエリアもウォーキングの場として活用できると思うが、現状では木陰がなく夏場は暑いので、ウォーキングしやすい環境整備を検討していきたいと思っている。

ご意見（キ）

○このような広聴会では若い人の意見が大切かと思う。今回はテーマ的に高齢者が多くなってしまっている面があるが、他の地区で若い人の参加はどうだったのか。このような広聴会は、今回だけでなく年に数回実施してもらいたい。

→これまでも若い人の参加は少ない。周知には若い人に向けてSNS等も活用したが、そのような情報を見ない人は見ない。若い人、一人ひとりに呼びかけるべきだという意見もあるが、現実的には難しい。

ご意見（ク）

○防災無線の音声は上手く聞き取れない。可能であればSNSでも情報発信をしてほしい。

→市公式アプリ「つるポッケ」等で配信しているので、今後はそちらを確認していただきたい。

ご意見（ケ）

○実際に災害が発生した時、自分一人で行動しなければならなくなった場合に対応できるか心配である。個人に対する災害時に対応できる防災情報や行動マニュアルの作成、提供をしてもらいたい。

→災害発生時は、まずは自分で自分の身を守るよう行動していただきたい。災害時の個々の対応の仕方等については、ハザードマップと行動マニュアルを組み合わせたものを作成し、全戸配布しているので、そちらを参照いただきたい。災害規模が大きい場合、公助に加えて自治会での防災活動が生きてくると思う。各自治会や自主防災組織での訓練については、引き続き実施し、参加してもらいたい。

ご意見（コ）

○健康になるためには規則正しい生活が不可欠だと思うが、一人暮らしの学生や経済的に厳しい人、仕事が忙しい人には難しい面もある。健康面と経済面は相互に関係していると思われ、健康に対する支援だけでなく経済的な支援も合わせて必要になるかと思う。

→健康面や経済面など政策分野の違いはあっても、相互に関係があるものと認識している。一体的にまちづくりを進めていく。

ご意見（サ）

○健康になるための数値目標をはっきり定めてもらいたい。例えば、一週間に必要なウォーキング時間など、活動に対する目標があるとよい。

→取組に対して数値目標を定めているものもあるが、数値目標の設定が馴染まないものもあり、一律に数値目標を定めることはしていない。本市の介護保険料は埼玉県内で最も低く、これは本市の高齢者が介護保険を使わず健康に暮らしているおかげだと思うが、これも一つの判断指標と捉えている。

ご意見（シ）

○学童保育等に通っていない子どもを預けられるような施設がほしい。第二小学区には児童館がなく、図書館も水金土日しか空いていないため、中央図書館のように多機能の施設があると助かると思う。サークルに所属していない人でも気軽に立ち寄れるような居場所を市民センターや図書館に整備することで、引きこもっている人などが外に出やすくなると思う。

→市民センターや図書館の機能、使い方については、今までにはない考え方をしていく必要があると感じている。今後も皆さんの意見を聞きながら進めていきたいと思っている。

ご意見（ス）

○健康寿命と平均寿命の差が男性9年、女性12年であるが、その間をどのように過ごすべきかが課題だと思う。65歳以上が高齢者となっているが、今では70歳くらいまでは働く世代となっており、高齢者であっても健康であるうちは活動的であるべきだと思う。

→高齢者であっても活躍できる場があることは非常に良いことだと思っている。

ご意見（セ）

○子ども食堂の立ち上げを考えているが、インフラ面で課題がありなかなか難しい。市で資金面での支援はできないのか。

→ご意見として伺う。

ご意見（ソ）

○東京や福岡で実施している「ベンチプロジェクト」を鶴ヶ島市でも実施してもらいたい。若葉駅のベンチはだいぶ前から使用禁止になっているため、この機会に改修してもらいたい。

→ご意見として伺う。